

はじめに

令和6年8月29日から9月2日にかけて、台風第10号（サンサン）が日本列島に接近したことに伴い、太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の影響で、西日本や東日本の太平洋側を中心に大気の状態が非常に不安定となり、非常に激しい雨となった。本県においては、特に西濃地域で、この影響を受け、8月31日を中心に猛烈な雨が降った。

大垣市の赤坂観測所においては、8月31日の3時間降水量で162.0mm、6時間降水量で224.0mmを観測したが、いずれもおおよそ200年に一度程度の確率で発生する降雨であり、これまでの記録を大きく更新した。

この豪雨により、池田町の東川（杭瀬川の支川）では、8月31日11時12分に越水による氾濫を確認したほか、杭瀬川及び支川の奥川と菅野川、水門川、泥川、平野井川の各河川から氾濫が生じたことに加え、それら河川や大谷川沿川において内水氾濫も発生しており、約693haの浸水が発生した。

一方で、近年、経験したことのない豪雨でありながら、輪中などの先人たちが進めた治水の取り組みや地域の土地利用などは、今般の台風第10号においても被害の規模を比較的抑えることに効果を発揮した。

こうした先人たちの取り組みやこれまでに整備を行った施設の効果を評価し、今後の対応策や方向性をとりまとめるため、直ちに流域の関係者を招集し、「令和6年8月台風第10号災害検証委員会」を立ち上げ、検証を行った。

【検証委員会 実施概要】

検証は、発災後、3 か月の間に3回の委員会を開催し、議論等を行った。

第1回検証委員会**開催日時**

令和6年9月13日（金） 10時～

審議事項等**●気象概要**

- ・今回の降雨を評価

中小河川で洪水のピーク流量に関わる3時間雨量及び6時間雨量のそれぞれが、過去最大

今回の雨は、下水などの整備目標を上回る70mm/hを記録

●被害状況等

- ・浸水範囲や被害情報の共有
- ・避けるべき被害がどういうものか、整理が必要

第2回検証委員会**開催日時**

令和6年10月31日（木） 15時～

審議事項等**●浸水被害（氾濫）メカニズム**

- ・氾濫河川における氾濫発生状況の整理

●これまでの取組状況と効果

- ・各施設等の整備や維持管理の状況、その効果の整理

●更なる減災に向けた取組み

- ・現時点で考えられる取組みや今後のメニューを含めて、不足している事項や継続的に進める事項について議論
- ・更に安全度を高めるため、その他の対策の掘り起こしを進める

第3回検証委員会**開催日時**

令和6年11月29日（金） 15時～

審議事項等**●検証結果のとりまとめと公表**

- ・検証報告書、検証概要の整理と公表資料の確認

●今後の流域治水の取組み

- ・流域治水施策に着目し、実施可能性のある対策を整理